

『尾張津島天王祭考』

今年も7月の『尾張津島天王祭』の時期が終わりました。夏のこの時期は疫病退散を願う祭りが、全国様々な場所で行われます。その中でも牛頭天王（疫病退散の神？現在は素戔鳴尊）を喜ばず祭りとして陸（西）の祇園祭、川（東）の津島祭は傑出した祭りです。尾張津島天王祭は、宵祭・朝祭・神葎流し神事が行われます。宵祭では五艘の巻藁舟が提灯を飾り、幽玄の世界へ導きます。これらは両側町と呼ばれた本町筋、津島五ヵ村（米・堤下・筏場・今市場・下構）の舟です。朝祭では巻藁舟が一夜で車楽舟に飾り替えをします。柱を金欄で包み、屋形の上には金色、漆塗りの屋台を上げ、能人形が飾られます。先頭に市江の舟が加わり六艘となり、絢爛豪華な王朝絵巻を展開します。朝祭の深夜には、神葎流しという神事が行われます。この神事は見てはならないとされてきました。葎にけがれを託し、川に放流します。天王川が伊勢湾まで続いていた頃は、葎が南の海まで流れていったそうです。

現在宵祭では、名古屋にある8つの領事館の皆さんを津島市が招待しています。祭りが国際交流の場面となっています。小学校で行う国際交流活動についてもお願いをさせていただきました。宵祭では高校生の皆さんが英語や中国語の放送を担当していました。また朝祭では、私も供奉人として還御の行列に参加し、袴・袴の姿で奉仕をさせていただきました。皆さんが汗まみれとなり、還御という儀式を行いました。この時も高校生が神輿を担いで祭りに参加してくれました。伝統ある祭りが若い人たちに受け継がれていることを感じました。

夏休みに入ると教育委員会では、校長先生・教頭先生と面談を行います。7月までの各学校の成果と課題について伺います。それぞれの学校が抱えている課題を確認できました。話題となったのは、不登校対策・コミュニティースクール（CS）・中学校部活動のあり方についてでした。熱中症についても協議しました。また7月8月に民生児童委員の皆さんとの連絡会を小学校区ごとで行いました。学校での子どもたちの様子を知っていただき、地域での心配事についても情報交換をすることができ、大変有益な会となりました。

境内に献灯提灯牛蛙

令和6年8月1日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視